

花草木

【キバナサフランモドキ】

キバナサフランモドキ（学名：Zephyranthes citrina）はヒガンバナ科タマスダレ属の常緑多年草です。

葉は線状長楕円形で多肉質、長さ 20-30 cm、幅 2-3 mm、断面は半円形です。花は黄色で、6 枚に見える花弁の花が長さ 17-25 cm ほどの花茎の先に上向きに一つ咲きます。花の時期は 7 月から 9 月頃ですが、1 つの花は 1 ～ 3 日で閉じます。次々に花茎が出るので開花期間は長くなります。

南米原産で、繁殖力が強く、花壇や道路分離帯などの緑として栽培されたものが野生化したりもしています。

花言葉は「汚れなき愛」「期待」「潔白な愛」です。



和歌山県内の公園で見つけたキバナサフランモドキです

我が署のスタッフ 兵庫森林管理署

松村 竣平（まつむら しゅんぺい）（令和 7 年度採用）

【現在取り組んでいる仕事は？】

治山グループの係員として、今年度から治山工事の監督業務に携わっています。

業務内容としては、治山工事の施工が必要な場所の踏査や、現地で工事に立会う監督業務等の現場業務から、受注者等との調整、次年度実行予定の治山工事の設計及び積算、予算管理等の事務作業まで、幅広い業務に取り組んでいます。

【職場の雰囲気は？】

職場の雰囲気としては、公私問わずコミュニケーションが取りやすく、業務上の問題が発生した場合はグループ全体で問題解決に向けて対応するので、一人で悩みを抱え込む必要がなく、安心して業務に取り組める環境だと感じています。

【林野庁の魅力は？】

治山、木材利用の推進、生態系保全といった、森林や木材、自然と密接に関わりのある仕事ができる点にあると考えています。

私が従事している治山事業では、自ら監督した構造物が完成後も形として残るため、自分の仕事の下流域に暮らす方々の安全な生活に貢献していることを実感しやすい点に魅力を感じています。



監督業務で資材の強度を確認中

森林事務所等紹介

上賀茂森林事務所（京都大阪森林管理事務所）

首席森林官 大石 政弘（おおし まさひろ）

上賀茂森林事務所は、京都市左京区、北区、右京区、亀岡市、南丹市、綾部市、福知山市及び船井郡京丹波町を管轄区域とし、国有林 15 団地 1,331ha 及び官行造林地 6 団地 400ha を管理経営しています。

京都市内には、世界文化遺産や国宝、重要文化財等に指定された寺社仏閣がたくさんありますが、それらを後世へ継承するために必要な修復資材や技能者が不足しています。この状況に対応するために設定された「世界文化遺産貢献の森林」が鞍馬山国有林（左京区）にあり、檜皮採取技能者である原皮師養成のためのフィールド等として活用されています。



鞍馬山国有林遠望



檜皮採取の様子

また、大悲山国有林（左京区）では、京都市北部の自然植生を代表するモミを主体とした高齢級天然林を「大悲山モミ希少個体群保護林」として設定し、定期的にモニタリング調査を実施して保護管理に努めています。

貴重な財産として次世代へ継承していくべき巨樹・巨木を「森の巨人たち 100 選」として選定していますが、大悲山国有林の「花脊の三本杉」と古屋国有林（綾部市）の「上津灰のミズメ」が選ばれ、適切な保護管理に努めています。



大悲山モミ希少個体群保護林



花脊の三本杉



上津灰のミズメ

古屋国有林では、地域における施業集約化を図るため、森林整備協定を締結して森林共同施業団地※を設定し、民有林と連携した路網の整備や相互利用等を推進しています。

今後とも、国民の皆様からの多様な要請に少しでもお応えできるように国有林の管理に努めます。

※森林共同施業団地とは、民有林と国有林が隣接する地域で、互いに連携して一体的な森林整備や路網整備を行う区域のことです。



古屋国有林間伐実施状況（森林共同施業団地）

シリーズ『国有林 最前線！』

ICT技術を使用した治山工事について

福井森林管理署

現場作業の効率化・生産性の向上のため、ICT（情報通信技術）を活用した建設工事が随所で進められているなか、福井森林管理署では令和6年度から実施している河内溪間工事においてICT施工を実施しています。

この工事では主に、起工測量、三次元設計データ作成、ICT建設機械による土工をICTにより実施しています。起工測量では、地上型レーザスキャナを使用し点群データの収集を行いました。これにより、従来のトータルステーション※を用いる測量より時間短縮・測量精度を上げることができます。

三次元設計データ作成では、起工測量により収集した点群データの精査・解析を行い、立体的な図形の作成を行いました。これにより作成した図面に設置構造物の立体データを合わせることで工事完成時のイメージを作業員と共有することが可能となります。

ICT建設機械による土工では、マシンガイダンスと呼ばれる技術を使用し、バックホウショベルの刃先位置と三次元測量データの誤差を自動追尾型トータルステーションで計測し手元のモニターに表示しました。これにより、従来設置していた丁張が不要となり床掘の基面確認が容易となります。

今後もこれらの技術を駆使し、効率的な治山事業の実行に努めてまいります。

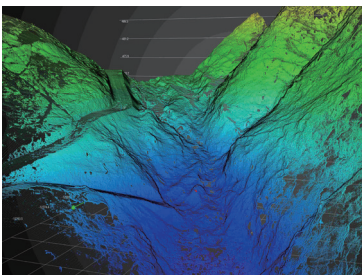
※ トータルステーション（TS）は、角度と距離を同時に高精度で測定できる電子式測量機器です。森林調査や境界管理などの現場で使用され、測量作業の効率化と精度向上に役立っています。



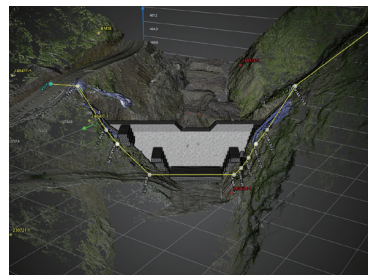
三次元測量風景



三次元測量風景（モニタ）



3次元起工測量の点群データ



完成イメージ



施工後の完成写真



バックホウ内モニター



手元のモニター